平成24年度社会福祉法人佐賀整肢学園事業報告

1. 法人本部

理事会を7回、評議員会を4回開催し、合計68件の議案の審議を始め、19件の協議事項について検討を行った。法人内各施設間の連絡調整等のため、法人内施設長等連絡会議や事務長会議を開催した。

また、法人内で取り組んでいる施設整備計画等の円滑な事業推進のため、行政機関や関係団体等との連絡調整を行った。更に、管理監督者研修会を開催し、人事管理上の諸課題について幹部職員の理解と知識を深めた。

更にまた、法人及び各施設のホームページやパンフレットを更新するとともに法人広報誌の創刊を行い、職員や関係機関・団体等に配布し、法人のイメージアップと周知を図った。

2. こども発達医療センター

平成24年4月から、肢体不自由児施設ひまわり園と重症心身障害児施設たんぽぽ園が、医療型障害児入所施設（児童福祉法）と療養介護施設（障害者自立支援法）の２つの機能を持つ一つの施設になった。在宅部門でも、重症児通園事業が児童発達支援と生活介護事業に、肢体不自由児通園部が、児童発達支援センターに変更された。また、新たに、放課後等デイサービス事業を開始するとともに、介護保険による訪問リハビリテーション事業を再開した。

新病棟の完成により、７月から一般病床を128床に、療養病床を42床とするとともに、新南棟を24年度からはリハ部門として活用することとした。

運営面では、利用者の意向に即した良質な医療・福祉サービスを提供するとともに、健全な事業経営に向けての組織体制と経営基盤の強化等を図り、行政はもとより、地域、ボランティア及び福祉・保健・医療等関係機関・団体との連携をより一層緊密にし、各事業の効率的かつ効果的な実施に努めた。

3. オークス

平成24年度は、障害者総合支援法や障害者虐待防止法が公布されるなかで、入所部門は、利用者の障害特性や個々のニーズに合った個別支援計画により、日中活動の充実、安全で快適な暮らしができる環境づくりに積極的に取り組んだ。その結果、入所は１日の平均利用者数は定員50名に対して49.44名で、利用率は98.8%、短期入所は1日の平均利用者数は1.49名であった。

一方、在宅部門は、介護保険通所介護（定員25名）は1日の平均利用者数は16.30名で前年度より0.59名減、生活介護（定員20名）は1日の平均利用者数は11.42名で前年度より0.16名増、地域活動支援事業（定員15名）は1日の平均利用者数は5.63名で前年度より0.95名減、居宅介護支援事業の介護サービス計画は、介護予防も含めて年間730件であった。

福祉ホームは、前年度は2名であったが、24年度は新たに2名が入所された。

4・かんざき清流苑

特別養護老人ホーム、短期入所、デイサービス、居宅介護支援、認知症対応型老人共同生活介護（グループホーム）等5事業の運営を行った。

運営状況は、主要事業所の特別養護老人ホームで、4 月から嘱託医及び協力医療機関となったこども発達医療センターとの連携強化及び重度者への早期対応等に努めた結果、退所者は 12 名（昨年は 23 名）で、退所者・長期入院者ともに減少し、入所部門の 1 日平均の利用人員は 63.9 名で前年度より 1.3 名の増であった。デイサービスは、1 日平均の利用人員は 23.0 名で前年度から 0.9 名減少した。グループホーム（定員 9 名）は、1 日の平均利用人員は 8.9 名で、利用率は 98%であった。

こうした状況を踏まえ、今後、より質の高いサービスを安定的に提供するため介護従事者の処遇改善を進めるとともに、デイサービスのサービス向上、新規利用者の確保及び増加する特養待機者へ対応するため、住宅型有料老人ホーム（サービス付高齢者向け住宅）及び居宅サービス事業所の新築に着手した。

5. からつ医療福祉センター

児童福祉法の改正に伴い、重症心身障害児施設アルトンが療養介護事業所アルトンへ移行し、入所定員を 32 名から 39 名にと増床し、福祉部門の収入増を図った。重心通園事業も児童発達支援事業へ移行した。病院部門は医科・歯科ともに利用者数は若干減少した。

新規事業として、放課後等デイサービス事業、特定･障害児相談支援事業、既存事業として、日中一時支援事業、メディカルショート事業等ニードの高い在宅支援サービスの充実を図り、地域支援に今年度はさらに力を注いだ。

障害者支援施設久里双水園では、今年度は定員超過枠を活用し更に 1 名増員を図り 54 名を入所させたが入院が多くなったことで、利用率は昨年と同等であった。多機能の生活介護事業、就労支援事業は昨年度と同等の実績であった。児童発達支援センターに移行したまつぼっくり教室は、若干利用率が上がった。

今年度の新規事業の放課後等デイサービスや特定・障害児相談支援事業は順調に利用者の確保を図った。

職員研修においては、今年 10 月の障害者虐待防止法の施行を受け、虐待防止に関する研修会を開催し、職員への充分な周知を図ることで利用者支援の更なるサービス向上へと繋げた。

6. かんざき日の隈寮

救護施設（定員 70 名）の施設運営を行った。

事業の実施に当たっては、前年度のサービス提供内容を検証し、関係機関と連携を密に取りながら、入所者の社会復帰等の自立や自己実現に向けて各種サービスの充実に努めた。

前年度から継続して進めてきた移転改築事業については、6 月 20 日に建物が竣工し、施設移転を行って 7 月 1 日から運用を開始した。移転後、建物や設備等に不具合等もなく、入所者は新しい環境に早期に馴染まれ、移転改築事業を無事完了できた。

利用状況は、入所定員 70 名に対して、年間平均利用者数は 73 名となり、定員に対する利用率は 104%であった。

7. 佐賀向陽園

佐賀県から経営移譲され 4 年目を迎えたが、当施設は地域において養護を受けることが困難な高齢者の生活の社会的セーフティ・ネット機能を果たしてきた。運営に当たっては、法人内の医療機関こども発達医療センターを始め、特養、障害者支援施設、救護施設等各種社会福祉施設と密接に協働し、施設機能の強化に努め、入所者の医療、介護及び生活支援等専門的・総合的な日常生活支援機能の強化を図ってきた。その結果、今年度は、ほぼ定員満床となった。

年間の平均入所者数は定員 80 名に対し 79.7 名（99.6%）と昨年度より若干減少したが、県内の養護老人ホーム平均入所率（95.3%）と比較しても高い実績であった。

8. 居宅介護支援センターわいわい

平成 23 年 7 月に開設し、高齢者デイサービス、高齢者及び身体障害者の訪問介護サービス事業を行ってきた。デイサービス及びヘルパー事業所と養護老人ホームの連携を強化し、同一敷地内のメリットを最大限活用することによって包括的に生活支援を構築し、入所者の処遇向上のみならず、養護老人ホーム職員の介護労働環境の改善を図った。

また、6 月には訪問介護事業所わいわいの身障ヘルパー出張所を唐津市相知町に開設し、サービス提供エリアの拡大を行った。

デイサービスセンター(定員 20 名)の 1 日平均利用者数は 15.95 名で当初予定の 13 名を上回った。介護保険のヘルパーは 10,047 件、障害者ヘルパーは 8 名の契約者に対し 2,298 件のサービス提供を行った。

9. 法人全体の利用状況

法人内各施設の昨年度の利用状況は、入所者の総定員数 562 名に対し、延べ入所者数 194,926 名となっており、ほぼ前年度並み（194,906 名）、入院者数は 210 床のベッド数に対し 74,468 名で前年度より 2,000 名増加した。

通所者は定員 230 名に対し延べ 43,385 名で、前年度（39,007 名）より 4,378 名増え、通院者も、延べ 75,965 名で前年度（71,577 名）より 4,388 名増加した。

訪問介護は「わいわい」のみで実施しており、介護保険が延べ 10,047 名で昨年度の延べ 10527 名から 480 名減少したが、身体障害者介護は延べ 2,298 名で昨年度の 230 名から大幅に増加した。